

M-GTA研究会 News Letter No.121

ニューズレターは、発表者の学びやSVのコメントを加えた研究の概要等を掲載したものです。M-GTAに関する学習の素材となるものです。ご活用ください。

また、記載された研究概要は未発表のものであるため、取り扱いには十分ご注意ください。ご自身の学習以外での活用、転載、SNSでの公開、第三者への共有といった行為は禁止しています。ご理解とご協力をお願いします。

<目次>

◇2024年度会員限定シンポジウム	1
【第一報告】	
根本 愛子／日本語教育分野におけるM-GTA.....	1
【第二報告】	
竹下 浩／M-GTA論文の質保証:社会科学領域における検討.....	5
【今回の会員限定シンポジウムの開催趣旨と振り返り】	
林 葉子	11
【参加者の感想】	11
◇次回のお知らせ	12
◇編集後記	12

◇2024年度会員限定シンポジウム

【日時】2025年 3月 8日(土)

【会場】オンライン開催(ZOOM)

【第一報告】

根本 愛子 (東京大学)

Aiko NEMOTO : The University of Tokyo

日本語教育分野における M-GTA

M-GTA Research on Japanese Language Education

今回の会員限定シンポジウムでは、日本語教育領域における M-GTA の現状と課題についてご報告いたしました。当日のスライドを添付しましたので、ご参照ください。M-GTA 文献データベースで日本語教育領域とした 23 本の論文を SV の視点で概観したのですが、日本語教育以外の分野の方にも参考になれば幸いです。

なお、この発表の基となったのは『日本語教育』187号(2024年発刊)に掲載された拙著「M-GTAによる日本語教育研究—M-GTA 文献データベースにおける日本語教育領域論文の分析—」です。この論文の目的は、これまでの論文を批判、否定することではなく、現状を把握し、今後の課題と方向性を示すものです。厳しい内容となったため、反発が出るのではないかと発刊前には危惧していました。ですが、実際には関係する方々からよい反応があり、また実際に M-GTA を用いて研究をしようとしている方々からも「どこに気を付ければよいかわかった」などの声をいただきました。今後の発展につながることを願っています。

同時に、自分自身も SV としての努力が必要であることを改めて感じました。今後の発展につなげるための方策を検討していければと思います。

〈参考資料〉

2024年度会員限定シンポジウム(2025/03/08)

日本語教育分野におけるM-GTA

根本愛子(東京大学総合文化研究科)

発表の背景

『日本語教育』187号(2024年4月)
【特集】日本語教育における質的研究の動向 寄稿論文
 「日本語教育における質的研究に求められるもの」
 -協働的リフレキシビリティからフィールドの変革を考える」
 「日本語教育におけるライフストーリー研究の展開と今後の展望」
 -ライフストーリー研究は日本語教育に何をもたらすことができるか」
 「エスノグラフィによる日本語教育研究」
 「複雑経路等至性アプローチ(TEA)の鍵概念」
 -日本語教育でTEAを活用するために」
 「M-GTAによる日本語教育研究」
 -M-GTA文献データベースにおける日本語教育領域」

刊行後2年が経過した号の論文は、J-STAGEで無料公開

根本(2024)の目的

M-GTAを用いた日本語教育分野の論文をSVの視点で検討する
 →これまでの論文を批判、否定することが目的ではない
 M-GTAの理解の程度と現状を把握→課題と方向性を提示

1. 「日本語教育領域」の論文の絞り込み
2. 領域と掲載誌
3. 論文の発行年
4. M-GTAの分析上の用語
5. 分析テーマ
6. 分析焦点者
7. 分析の適切さの検討
8. 今後の課題

M-GTA文献データベース

M-GTA文献データベースとは

2023年度総会時に長山先生から報告あり

M-GTA研究会

文献調査プロジェクトの概要報告

2023年5月20日(土)M-GTA研究会総会

プロジェクトメンバー
 林栗子、木下康仁、坂本智代枝、竹下浩、根本愛子、長山豊

目的

- M-GTAを用いた研究論文の全体的な動向を把握する
- 各学問領域におけるM-GTAを用いた研究論文の特徴を明らかにする

長山(2023)

分析対象の研究論文の絞り込み

2022年3月~5月

医学中央雑誌(CJN)でM-GTAの研究論文を検索、
 掲載論文数(重複除去)1490

除外文献(n=169)
 ・字表(n=103)
 ・地図(n=56)
 ・その他(解説、書評、別掲記事等)(n=30)

掲載論文の形式で構成されている研究論文(n=1490)

除外文献
 -M-GTAの分析手法を使用していない研究論文(n=20)

M-GTAを用いた研究論文(n=1470)

**最終の選別
 論文類型
 発行年
 M-GTAの分析上の用語
 M-GTAの引用文献**

長山(2023)

専門領域別の論文数

専門領域	論文数(%)
看護	496(33.7)
教育学関連	309(21.0)
心理	193(13.1)
福祉	134(9.1)
パラメディカル	72(4.9)
社会学関連	70(4.8)
医療・医学	66(4.5)
経営・労働学	50(3.4)
介護	44(3.0)
その他	36(2.4)
合計	1470

長山(2023)

日本語教育はない

1. 「日本語教育領域」の論文の絞り込み

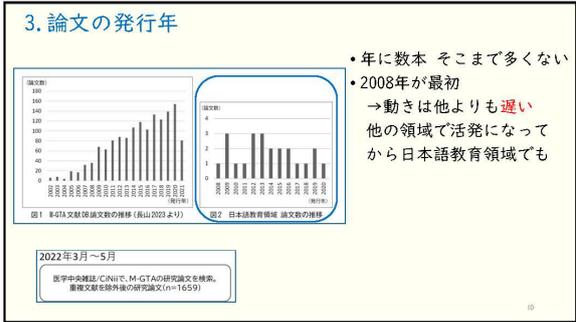
① 誌名に「日本語教育」を含む論文 15
 ② 論文タイトル(サブタイトル)に
 「日本語学習者」 5
 「日本語教師(ネイティブ教師)」 5
 「母語話者」 4

重複を除いた23本を便宜上「日本語教育領域」とする

2. 領域と掲載誌

領域	掲載誌
教育学領域	19
『日本語教育』	4
『言語文化と日本語教育』	4
『日本語・日本語文化研究』	2
その他	9
経営・労働学領域	2
その他の領域	1
社会学領域	1

内輪 😞
教育学領域の学会誌でも「日本語教育」
紀要or大学名を冠する論文集
 査読なし? 😞



4. M-GTAの分析上の用語

分析用語	あり	なし
分析テーマ	63.1%	36.9%
分析焦点者	43.3%	56.5%
分析ワークシート例	60.8%	39.2%
ストーリーライン	61.6%	38.4%
結果図	79.7%	20.3%

分析焦点者の視点で分析テーマに沿って
 分析テーマと分析焦点者が少ない論文が多い
 両方あるのは3本
 全部あるのは1本

5. 分析テーマ

- コンパクトな理論生成をするために分析対象とするデータに対して設定される(木下2020)
- 関連する具体的な研究課題をいくつか含む大きな構想としての研究テーマと区別される(山崎2019)
- 研究テーマから絞り込み、データに密着した分析となるよう設定される(木下2020)

「分析焦点者」が/の ~~~ する /のプロセス
 →明らかにしたい問いのうごきのメカニズムを理解する
 × 何がうごいたか ○問となるものがどのようにうごいたか
 ≠ 研究課題、研究テーマ

6. 分析焦点者

- 調査対象者を方法的に抽象化した人間集団のこと(山崎2019)
- 概念生成の定義の主語が分析焦点者となるよう解釈する(唐田2023)
- 分析結果の一般化可能な範囲を限定するものであり、インタビュー対象者として設定された条件は、特別な理由がない限り含めない(木下2020)

≠ インタビュー協力者/対象者

7. 分析の適切さの検討

分析テーマと分析焦点者がいない → 勘違いの結果から推測

- 1) 研究テーマとプロセス性
- 2) 収集データ
- 3) 研究法の選択
- 4) 提示された結果

7-1. 研究テーマとプロセス性 ①

明らかにしたい問はどのようなものか

授業評価	9
学習動機	3
日本語教師のキャリア	3
ネイティブ教師とノンネイティブ教師	2
その他	各1

学習者に関するもの…学習プロセス、自己認識
 教師に関するもの…学習者の教師に対するニーズ分析
 周囲に関するもの…受入側の意識の変容(看護師)
 …学習支援(看護師) EPA
 …学習者支援(日本人学生)

この授業を通して何を学んだか 履修前・履修中・履修後

7-1. 研究テーマとプロセス性 ②

- 1) × 何がうごいたか ○問となるものがどのようにうごいたか
- 2) M-GTAでいう「プロセス」とは時系列ではない (木下2022)
 - ・実践に活用できるよう理論(説明モデル)の形にまとめる
 - ・分析結果の一般化可能性を担保するには、時間的順序性は切り離す必要がある
 - ・時間の流れに沿った説明を行おうとすると分析が表面的なレベルにとどまってしまう

この授業を通して何を学んだか 履修前・履修中・履修後

7-2. 収集データ① データ収集方法

アンケートの自由記述部分 2
インタビューを複数回 3

M-GTAのデータ収集方法 (木下2020、2022など)
半構造化インタビューで行う
インタビューは可能な時にまとめて行い分析対象データとする
分析上さらにデータが必要だと判断された場合にのみ追加収集する

7-2. 収集データ② インタビューした人数

最大値 22名、最小値 1名、中央値 9名、平均 9.9名
→1桁 11本

木下(2020)
人数はそれだけで独立した判断基準になるわけではない
その理由の説明ができるかどうかの問題であることが多い
→「少なくともいい」というわけではない = **理論的飽和**
ある概念のバリエーションが同じ対象者からしか出なければ、
概念としては不成立と判断する
そもそも「分析焦点者」の設定が適切か→減る可能性あり

7-2. 収集データ③ 研究方法の選択

質的研究法はそれぞれに独自の認識論や分析手順がある
→分析方法だけでなく、「なぜその方法を用いたか」の説明が重要

インタビューの人数が少なくても分析が可能であるため、
SCQRM(構造構成的質的研究法 西條2007, 2008)の理論で、
分析方法にM-GTAを用いた 4本

異なる研究法の混同は、双方にとってマイナスに働くことが憂慮される
(戈木ほか 2012)

7-2. 収集データ④ 提示された結果

結果図とストーリーラインがあればそれでよいのか？

- ・恣意性が感じられるもの
- ・分類的なもの
- ・記述的なもの

**「M-GTAを用いた研究」か
「M-GTAの分析ツールを用いて質的コーディングを行ったか」** (竹下2020)

- ①成功要因だけの収集
- ②不特定多数の「相互作用」
- ③先決めカテゴリーの証拠探し
- ④分析ツールのみ流用

8. 今後の課題

研究者にとって(M-GTAに限らず)質的研究の学びを深めることは難しい

- ①一つの方法を試すにも膨大な時間がかかる
- ②質的研究法の手続きが明瞭ではない
- ③研究法の選択が困難である (神崎 2019)

乗り越える方法 → 基本的な勉強の大切さ (山本2009)

- ①質的研究方法とは何かを知ること
- ②技術論に拘泥しすぎないこと
- ③よい論文をたくさんじっくり読むこと

**M-GTAを知る
M-GTAに拘泥しすぎない
M-GTAのよい論文を読む**

8-1. 拘泥しすぎない

明らかにしたい問いが

でも M-GTAでやりたいんです → 定まっていない

M-GTAではなさそう... → うまくまとまっていけない

じゃあ何がよいですか

→ **明らかにしたい問いを明らかにする
明らかにしたい理由を明らかにする
→ 明らかにするためにどうすればよいか明らかにする**

8-2. 「よい論文を読む」

手にしたものは、果たして「M-GTAのよい論文」なのか
M-GTAの理解が深まっていなければ判断は難しい
日本語教育領域のM-GTA論文は「内輪」「査読なし？」
→ **適当とはいえない論文が「M-GTAのよい論文」とされるおそれ**
それを参考にすると、適当ではないものが再生産される
それが正しいとされると、適当なものが不適当になる

→ **M-GTAの必読文献&モノグラフシリーズを読む
他領域の論文も読む
査読側の課題でもある**

8-3. 査読側の課題①

質的研究論文の査読には困難がある

**査読者が質的研究の理解を深める
査読の審査基準を明確にする**

- ①査読者の確保が難しい
- ②どこからコメントすればよいか悩む
- ③査読者間で査読内容と基準が統一されていない
- ④論文の質の評価が困難 (福島ほか 2018)

①個性の高い研究法が複数あり、それぞれに精通した査読者を確保することは簡単ではない
②研究者自身もそのいずれかを得意としていることから、査読候補者はさらに限定される
→ 査読対象論文と査読者のマッチングが慢性的に困難 (木下2020)

8-4. 査読側の課題②

- ・査読する側が質的研究法に理解を深める努力
- ・質的研究論文の審査基準の明確化を検討
→ cf 看護領域: 室間・グレッグ(2018)

↓

自分自身の課題

- ・さまざまな質的研究法に理解を深める努力
- ・査読をていねいにする→投稿者・他の査読者に伝える努力

まとめ

1. 「日本語教育領域」の論文の絞り込み 23本
2. 領域と掲載誌 → 内輪、査読なし？
3. 論文の発行年 → 他領域に遅れる
4. M-GTAの分析上の用語 → 示されていない
5. 分析テーマ → ≠ 研究課題、研究テーマ
6. 分析焦点者 → ≠ インタビュー対象者
7. 分析の適切さの検討 → 混同気味
8. 今後の課題 → 研究者の課題、査読側の課題
自分自身の課題

参考文献

- ・ 池田晴子 (2023) 『乳幼児虐待予防のための多期間連続のプロセス研究—産科医療機関における「気になる親子」への気づきから』 遠見書房
- ・ 神崎真実 (2019) 『はじめに』 サトウタツヤ, 春日秀明, 神崎真実 (編) 『ワードマップ 質的研究法マッピング 特徴をつかみ, 活用するために』 新曜社, 2-8.
- ・ 夏間真実, グレック長幹 (2018) 『質的研究論文のための実践セミナーの背景と実践ガイドラインの提示』 『看護研究』 51(1), 4-9.
- ・ 木下恵仁 (2020) 『定本M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論』 医学書院
- ・ 木下恵仁 (2022) 『実践的質的研究法M-GTAの方法論的特徴』 『老年社会科学』 43(3), 383-389.
- ・ 光木クレイジル進子, 三戸由美, 関美佳 (2012) 『日本の医療分野における質的研究論文の検討 (第1稿) 論文数の推移と研究法の活用』 『看護研究』 45(5), 481-489.
- ・ 西條剛央 (2007) 『ライブ実践的質的研究とは何か』 SOROMベシツク編 『新曜社』
- ・ 西條剛央 (2008) 『ライブ実践的質的研究とは何か』 SOROMアドバンス編 『新曜社』
- ・ 竹下浩 (2020) 『精神・発達・児童福祉の質的研究をどう展開するか—教育移行支援施設(精神・発達)および職場(発達)での支援を探る』 遠見書房
- ・ 長山聖子 (2023) 『M-GTA研究会 文部調査プロジェクトの概要報告』 M-GTA研究会2023年度年次報告発表資料
- ・ 長山聖子 (2024) 『M-GTAによる日本総教育研究(M-GTA文献データベース)における日本総教育領域』 『日本総教育』 187, 60-73
- ・ 藤本愛子 (2024) 『青年海見, 木下恵仁, 藤本まよみ, グレック長幹, 小松浩子, 夏間真実 (2018) 『質的研究論文の査読の現状—インタビュー調査の結果から』 『看護研究』 51(1), 10-11.』
- ・ 山崎浩司 (2019) 『3+2 非正規がワンダフル・セオリー・アプローチ』 サトウタツヤ, 春日秀明, 神崎真実 (編) 『ワードマップ 質的研究法 マッピング 特徴をつかみ, 活用するために』 3章, 新曜社, 109-115.
- ・ 山本則子 (2009) 『意義あるおももしろい質的研究論文を仕上げするための工夫』 『看護研究』 42(5), 387-395.

【第二報告】

竹下 浩 (筑波技術大学)

Hiroshi TAKESHITA : Tsukuba University of Technology

M-GTA論文の質保証:社会科学領域における検討

Quality Assurance of M-GTA Papers: Consideration in the Field of Social Sciences

1. 当日発表したスライド

2024年度会員限定シンポジウム 第2発表

M-GTA論文の質保証

社会科学領域における検討

3月8日(土) 14:00-15:00 (予定)

筑波技術大学 竹下 浩

本日のテーマ

社会科学のM-GTA論文・質保証・要確認点:

1. 「**理論**」の基準は?
 - ・ 理論と記述を区別する
 - ・ 社会心理学の蓄積がある
2. 「**応用**」の方法は?
 - ・ 研究者は現場を持たない
 - ・ 現場支援には根拠が必要

目次

1. 歴史 (20分)
2. 問題 (5分)
3. **理論** (10分)
4. 手順 (10分)
5. **応用** (15分)

} 総表

1 歴史:何を「修正」?

1980's: 実践主義(pragmatism)の輸入

- ・ UCSF (1979-1994)
- ・ **AR(pragmatic)人類学**= 地域生活を観察・分析するだけでなく、変革者と連帯、目標を達成を支援 (Krieger, 2006-2010, 木下恵, 文化と意識のアクションリサーチ, p.292) → 科学や研究は、**地域の問題解決と不可分**
- ・ 科学は**共同体の問題を解決**すべきだ。社会科学者による調査対象へのフィードバックは極めて貧困。新たな社会科学は、臨床的**社会科学** (木下 1989, イデオロギーとしての「科学」概念と共同体, p.48, 50) 東この頃 (1988) 『アウェアネス』 編訳

プラグマティズムとは?

1. 観念を行為と帰結で定義しろ (**行為は、信念とセット**)
2. 理論は暫定的、共同体で試しながら真理に収束していく (**理論は、応用とセット**)

- ・ 認知的要素だけだと、他者が試さない (**客観性の重視**)
- ・ 理論を提示して終わり、ではない (**実践性の重視**)

1989：現場で試作

- ・ケア現場で実務者として働くなかで、実践的判断のために分析的に問題を整理する作業の重要性を痛感した (両生, 1999, 27) **【実践的 社会科学論 / 実践的理論化】**
- ・「アイデンティティ・トリック」 (老人ケアと社会学, 1989, 197) : 既知の関係→変身×遊び→ウケる・
- ・実践に応用する老人ホームが出現 (両生, 132)
- ・「**応用**」=GTと不可分 (両生, 93)

1999：ミニ版提唱→2000's：組織化

- ・研究者としてでなく実務者として老人ケアの現場で働くなかで、実践的社会科学としてのGTAへの関心が強まり、実務者が概念を生成して状況に動かかけることが可能であると確信した (1999, 両生, p.27)
- ・そのために、「修正」する (改訂)
- ・1999.12：実践的GTA研究会設立、各領域に普及を図る
- ・2007：竹下弟子入り

修正1：限定・緩和・開示

- ・GTの思考法が「実践的に有効となるのがHS領域。[-]日常業務の中で「調査」できるように[-]。 (両生, 1999, 23)
- ・現実的・実践向けにするため、小規模にする (両, 127)。実務の場に絞る (131) **【方法的限定】**
- ・飽和は、複数の主要カテゴリー関係説明で可 (130) **【分析密度の緩和】**
- ・分析促進ツール＝コーディング・パラダイムで十分 (223)
- ・研究テーマ、概念生成、オープンと収束化のコーディング (118, 183, 249) **【分析プロセスの開示】**
- 「**応用するから、理論でなくて(不完全で)よい**」ということ
- ・応用と理論の一体化、GTAをよりプラグマティックに (意義)

2010's：量

- ・2010を境に、前後10年間の論文数を比較した。
- ・心理学 (193) の86%、
- ・経営学 (50) の82%、
- ・社会学 (70) の71%が、2010年代＝**量拡大の10年**
- ・「対人援助職版M-GTAをそのまま社会科学に流用してもいいのだろうか？」なんて、考えもしなかった！ <(-_-)>

【査読付き学術誌論文】

直下 浩 (2009) 「中国編用プロジェクトにおける外部専門家の支援プロセス」 *経営行動科学*, 22(1), 21-33.

直下 浩 (2016) 「ものづくり型PBLにおけるチームワーク形成過程」 *教育心理学研究*, 64(3), 423-436.

直下 浩・藤田紀勝 (2019) 「就労移行支援員の心理的変容過程」 *産業・組織心理学研究*, 33(1), 3-17.

直下 浩・藤田紀勝 (2019) 「就労移行支援員による利用者の就労スキル発達支援過程」 *教育心理学研究*, 67(4), 265-277.

【学術書籍】

Ishiyama, N., Nakashiki, Y., Koyama, K., & Takeshita, H. (2019) *Mechanisms of Cross boundary Learning: Communities of Practice and Job Crafting*. Cambridge Scholars, 59-89. (4章「M-GTAの思考と技法」)

【学会発表】

2012(1)「OSS参加におけるエンジニアの行動変容過程」日本グループ・ダイナミクス学会

2017(1)「説明的技術発達メカニズムの解明」日本応用教育心理学会

2018(1)「技能五輪ゲームにおける短期的技能発達プロセス」日本教育心理学会

2019(1)「視覚障害者の就労スキル獲得及び上司の支援プロセス」日本教育心理学会

2020's：質

- ・2010年代末、各誌から編集委員任命、査読依頼
- ・2019年：産業・組織心理学会、2020年：教育心理学会
- ・2017年：情報処理学会、2020年：学生相談学会、2022年：健康心理学会、2023年日本心理学会…
- ・2021年文献調査PJ発足

【査読付き学術誌論文】

Takeshita, H. & Ohtani, T. (2020) "The support process for high school students' employment: Act-cognition interaction model." *Psychology of Education Review*, 44(2), 52-60.

直下 浩 (2021) 「経営・心理学におけるGTA評価基準の検討」 *経営行動科学*, 33(1-2), 1-24.

Takeshita, H. (2025) "Developmental Interactions Between Employees with Visual Impairments and Their Sighted Managers: A Process Theory." *Journal of Business and Psychology*.

直下 浩 (2025) 「**社会科学のGTA**」 *応用社会学研究*, 67.

大嶋伸夫・直下 浩 (2025) 「**協働障害者保護施設手帳所持者を雇用する特別子会社における看護職と部長の社会的役割作用過程**」 *心理学研究*, 96(2).

【学術書籍】

直下 浩 (2020) 「精神・発達・視覚障害者の就労スキルをどう開発するか：就労移行支援施設(精神・発達)および職場(就業)での支援を探る」, 産業書房, (第14号、「M-GTAの考え方や使い方」)

【学会発表】

2020(6), 2021(2), 2022(5), 2023(4), 2024(3)

2020

質的研究法M-GTAについて (研究員スキルアップ研修：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)

経営研究から見たM-GTA (日本労働学会関東支部第2回研究会)

2021

目を語るー「質的研究法M-GTA叢書1」 (M-GTA研究会 2020年委員会限定シンポジウム)

M-GTAの方法と考え方 (経営行動科学学会)

視覚障害者の就労スキルをどう開発するか：支援機関や就労先にできることを探る (関東・甲信越地区盲学校・盲成施設 進路指導委員会 教職員研修会)

ワークショップ「首の高い投稿論文を書くために」 (産業・組織心理学会 第36回大会)

質的研究法、M-GTAを学ぶ (59回全国学生相談研修会)

2022

産業・組織心理学におけるM-GTAの実践 (IAT/JIOP研究力向上セミナー)

2023

世代間交流研究のためのM-GTA (M-GTAワークショップ：城西国際大学)

修正2：実践重視→無意識に脱落

1. 両側分析しなくてもよい
2. 1対1しなくてもよい
3. 認知的要素だけでもよい
4. 対象サンプリング (Strauss, 1987) しなくてよい

領域に合わせた調整の必要性

- ・本書で提示した道具に修正を加えて、その人、その人に応じたもっともよい使い方が工夫される余地を残している。[-]その方が、[-]意義と責任を意識して研究活動を行いやすくなる。[-] (2003, 誤り, 256)
- ・基本的な**考え方[-]の理解が重要**なのであって、具体的な形には研究者自身の判断によってある程度のヴァリエーションがあってもかまわないのである。むしろ、すべての手順を厳密に踏襲するよりも、どこかに自分で修正をして自分版の方法としていくことが期待されている。[-] **自分の研究により適した調整**ができる [-] (2005, 分野別, 21)

定本の印籠化 = 思考停止

- 筆者はこれまでM-GTAを「説明すること」について、[...]研究者個々が独自の工夫を施すことを推奨してきた。[...]本書で説明しているM-GTAの分析方法が唯一のものではない[...]
- M-GTAの基本特性を踏まえてさえいれば、[...]自身の判断を「説明する」ことができ、それにより、自分自身の方法としてM-GTAを獲得していくことができる[...](2020, 尾木, ix)

2 問題

2.1 質的研究への厳しい目

- 質的研究は約束を果たしていない
- 始まりは、量的研究への批判だった
- しかしその後、質的研究者には驕りが生じた
- 理論を科学的に開発する約束(科学的厳密)を忘れてしまった
- ブルーマーの指摘は、社会科学者の宿題なのだ (Hammersley, 1989=2022, 谷川訳, 質的社会科学者のジレンマ, p.1-9)
- 理論は「記述」(「これは何か」の質問に答える)とは異なり、「いつ・なぜ・どう」の質問に答えなければならない (Bacharach, 1989)

2.2 ところが後続GTAは...

- GTAの目的は、社会学者がデータから「いつ・なぜ・どう」に答え得る理論を発見することだった (Glaser & Strauss, 1967=1996)
- 「理論構築は望まないが質的データを分析したい研究者」や、「実践や教育で質的分析が必要な読者」にも使えるように、GTAの理論的要件を緩和した。理論は「関係を表す言明で関連付けられた複数の概念」でよい (Strauss & Corbin, 1998: x, 15=2004: 3, 23)
- 「皆が理論構築に向かう訳ではない」ので、「随筆等を執筆する専門家にとっても有用」にするための、「理論構築ではなく、訴求力のあるデータの統合」としてのGTAを示した。複数の現実が前提で、研究者がカテゴリーを構成し、分析中は主観性を認識すればよい (Charmaz, 2014: xvii, 236=2020: xvi, 258)

2.3 現状

- GTAと称する「GT-ing」(湖池未読の、テーマ別に整理された記述的報告)が今や広範に存在している (Holton, 2018: 233-234)
- 社会科学の研究者がGTAを応用するためには、理論的背景の理解とそれに基づく分析が、不可欠かつ急務

1. どうすれば、社会的現象の「理論」を科学的に発見できるか?
2. 一般的に普及しているGTAと、どう違うか?

3 GTAの理論的根拠

3.1 プラグマティズムの継承

- GTAは技法ではなく分析のスタイル(技法と認識のセット)
- プラグマティズム: 行為と問題解決**
- シカゴ社会学: 観察・面接法、現場の社会科学**
- 社会的営みの変化(状況移行法則)の理論化、社会的相互行為と過程の解明
- デューイの「論理: 探求の理論」(Strauss, 1987: 5-6)
- 社会的相互行為・過程の理論('SI-PT')パラダイム
- 社会科学の研究を支える基本的原理 (Langridge, 2007)

3.2 SI-PTパラダイム

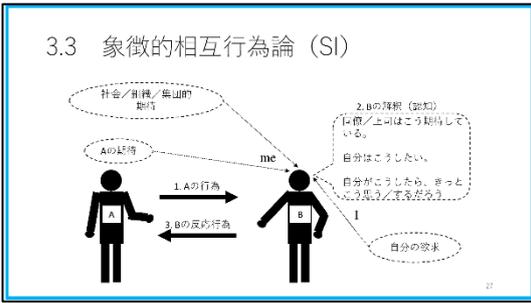
図1: SI-PTパラダイム

3.2.1 科学的論理学

- 過程の理論
- 科学的論理学: 科学的方法で相互行為様式を決定→因果関係の過程を発見し
- 「変数」ではなく「出来事」間の因果関係!
- 社会的行為の現象は構造(実験室の因果関係)ではなく過程(出来事間の因果関係)から成り立っているため、研究者は過程の規則性を解明すべきなのである (Lindesmith, et al. 1978=1981)
- 社会と二者間関係は相互作用している

3.2.2 プラグマティズムの格率: 理論であるための論理式

- 概念や真理は、実際の経験や実践に結び付いていなければならない (Mizak, 2013, 32-2019, 72)
- 概念は、それがどんな結果(実証的な関わりがある)を及ぼすかで定義すべきなのだ
- 例: 「硬い」ではなく「ナイフで引っ掻いても傷がつかないだろう」
- 「ある環境Cで、もし私がAをすると、私はEを経験するだろう」(Hookway, 2012)



3.3.1 「象徴的」とは？：パースの認識論

- 伊藤 (1985) 「パースのプラグマティズム」 勁草書房
- 「認識」=記号的な過程
- 記号=Icon (象徴) + Index (指標) + Symbol (意味)
- 人は、特定の社会的状況と自己の欲求条件で、シンボル (象徴) を受信することで、特定の行為モードを生じる

3.3.2 「相互行為」とは？：パースの存在論

- 現象 = 性質 (主観的: 善い, 悪い) + 実在 (客観的: 作用と反作用) + 法則 (抽象・普遍的: 経験の意味) (伊藤, 1985)
- 実在 = 作用と反作用 (相互作用) で定義
- 最近の量子力学 (原典論的解釈) : 世界を考えるのに役立つ要素は、各物理系の絶対的な属性ではなく、物体系同士の互いに対する発現のあり方 (Rovelli, 2020-2021)
- ミードは、パースの自然界を対象とする認識論と存在論を社会的な状況に応用、「意味は、他者との相互行為と不可分である」とした
- 物理的衝突である「相互作用」は、認知と行為のセットである「相互行為」となった

4 GTAの分析手順

4.1 科学的探求の理論

- 魚津郁夫 (1978) 「デューイ」 平凡社
- 科学的探求 = 象徴を用いた推論で、不確定状況を構成要素と諸関係に転換すること
- ①問題の状況: 人は環境と様々な相互作用、帰結もバラバラ
- ②社会学者が問題を特定
- ③概念の生成: 不確定な状況はいきなり明確な構成要素に転換できない → 状況の構成要素 (こうなると、こうなる) を発見する
- ④理論の発見: 様々な構成要素の意味を関連させながら、問題解決に必要な諸操作を示す理論に発展させる
- ⑤観念のテスト: 観察された事実 (問題の記述) と観念 (解決策の提示) は関連 (connect) している。分析過程で解決につながる事実は結びつき、そうでない事実は除外される。

4.2 分析過程の可視化

- GTAの分析過程を可視化したのが、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (『M-GTA』木下, 2003; 2007) の分析手順と分析ツール
- 竹下はこれを改良し、概念生成票・要素構成表・過程理論図で、査読者や読者の客観的判断を可能にした
- これはSI-PTパラダイムを共有しているから可能なものであり、将棋のルールを知っていれば、誰でも詰将棋の過程を同様に判断できることに通じる (Takeshita, 2019)

4.3 概念化で客観的分析が可能に

- 科学的論理学 = 法則性の観点から相互行為を再構成することで、客観的分析を可能にする
- 概念化すれば、協力者が経験した出来事の実際の順序とは無関係に、論理的に操作できるのである。

科学は大きな質的出来事を[-], 相互行為のセットに分解する。組合せのそれぞれは[-]連続・共存・能動的な全体を形成するために、乖離や妨害無く他と結びつくことが可能である (Dewey, 1938: 7, 696-2013: 3, 435)

論理学は社会的科学である。文化と言語を共有する共同体で他者と相互行為している人間の行動は、分子ではなく諸象徴の抽象的セットに分解できる (Dewey, 1938:36-38 - 2013:29-30)



4.4 理論化コーディング

- 要素カテゴリーの発見:** 複数の概念を、一段高いレベルで組み合わせる
社会科学の構成概念は複雑なので、側面 (dimension) に分割する必要がある (Lazarfeld, 1958)
- 理論を構成するカテゴリーは、いきなり露りのデータから発見出来ない
入れ子構造にしておくことで複数の側面を備え、説明力が強くなる。
- 論理式カテゴリーの発見** (成立条件・相互関係・帰結) : 要素カテゴリーが束ねられ、論理的な説明力が強まる一因果関係に結合
出来事の時間的な諸関係で構成されている一般化を道具的・操作的に利用することで、質的には似つかない連続的出来事が単一の連続的出来事の構成要素になる (Dewey, 1938: 715-2013: 446)

相互作用の順序が抽象化されるので、『もし…ならば』という象徴で、理解可能に (Dewey, 1938: 685-2013: 430)

側面	論理式	要素	帰結	注	意義 (文化情念の発現)
1. 象徴的化帰結					
2. 「見る・物」の発見					
C. 帰結の帰結	相互関係の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結
	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結
	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結	帰結の帰結
3. 相互作用の帰結					
4. 相互作用の帰結					

4.5 突合によるコア・カテゴリー発見

Takeishi, H. (2025) "Developmental Interactions Between Employees with Visual Impairments and Their Sighted Managers: A Process Theory". Journal of Business and Psychology

5 GTの応用

GTAの目的は理論の日常生活への応用だ。理論と実践は不可分なのである。
(Glaser & Strauss, 1967, 237=323)

5.1 老人ケアの人間学(1993)

- **GTA=実践的な社会科学論**。量的/質的の二元論ではない。1967年以降、この点が論じられていない。(168-169)
- **GT=応用されるための理論**。唯一の真理でも完璧な理論でもない。応用者の行為を促すための理論 (192-193)
- HS従事者が試みる時は理論的飽和不要。現場の人が新しい概念やカテゴリーを作り出すことを重視 (203)

5.2 定本(2020)

- M-GTAは、HSにおける専門職・利用者間相互作用の**実践を理論化** (湧明モデルの生成) し、**理論を実践するサイクル** (316)
- **現実を変える**、研究活動に社会的運動性をもたらす (324)
- しかし現状は、殆どの研究が理論生成まで (現実を変えているか、理論を実践しているか、不明) … (318)
- 永遠に達成できないのか？

5.3.1 設計

- 2022年6月：予備会議 (Langlois et al., 2014)
- 2022年6-10月：第1サイクル (B.H.も)
- 2023年2-6月：レビュー (2月に全社、6月に関係者全員)
- 2023年9月-2024年1月：第2サイクル

Slide 41-46 出典：「月」下 (2023) 「視覚障害者キャリア開発を促すGTA-AR：新設的意義の導入」日本労働関係学会年次大会 第5回分科大会、発表スライド

5.3.2 日程

- 4か月間、1時間のWeb会議で構成
- 1か月め：双方の結果図を理解し、行動計画を決定
- 1-1：オリエンテーション、プログラムの概要や概念図を説明
- 1-2,3：個人セッション
- 1-2：全概念について自分の経験や認識にどの程度同意するかを回答
- 1-3：状況を改善するために役立つ概念を検討、行動計画を策定
- 1-4：それぞれの行動計画を共同で調整
- 3か月：週初めに行動計画作成、週末にレポート
- 3-4：個別レビュー

5.3.3 参加者

- 事例1：A社の全盲従業員と管理職 (2022年7-10月)
- 事例2：B社の弱視従業員と管理職 (2022年6-10月)
- 事例3：A社の全盲従業員と管理職 (2023年9月-2024年1月)

5.3.4 テスト基準

- 適合性と実用性 (Glaser & Strauss, 1967; Glaser, 1978; 木下, 1999)
- 適合性は最初の月の第2週に評価された
- 結果図の概念を説明し、参加者は、1「私も経験したことがある」、2「よく理解・共感できる」、3「当てはまらない」のいずれかで回答
- 有用性を評価するために、参加者は概念図から得られた示唆に基づいて「仕事で試してみたいこと」を考え、その結果を報告させた (2~4か月目)

5.3.5 効果-T1

- 妥当性 (評価の一環)
 - 高い妥当性を示した
 - 参加者の現段階&両者の段階ギャップが判り評価ツールとして有用
- 有用性 (介入の効果)
 - 相手の景色を眺める効果
極度の無い恐れ (おぼろがられている?)・心配 (どうせおぼろがられている?) が喪失
 - 相手の景色を眺める効果
孤独感解消 (おぼろがっていない)・アイデンティティの支え (前目が強みではない)
 - 小さな行為を実施することの効果
上記に動機づけられ行動すると、相手の反応で安心

5.3.6 効果-T2

- 妥当性 (評価の一環)
 - 前回と同じ
- 有用性 (介入の効果)
 - 他者が認識可能な**行為・スキル獲得・新設タスク**を対象とする
 - 滞り月の第3週：上記に焦点して検討
 - 提出された計画を研究者がタスク分解、**進捗管理票**を作成
 - 週ごとに報告させ、発生件数を集計

5.4 社会学で社会を動かす

- 社会科学研究者：プログラム開発と実践・評価（理論はGTA、応用はAR）
- HSスタッフ：①結果図を自分の現場で応用した結果を報告；②各病棟の応用（適合度・修正状況・改善効果）をレビュー
- **応用結果が報告できないなら、M-GTAを使うな**
- 例：中村らの文献調査（2008）：「慢性疾患の病みの軌跡」の課題＝実践によるテスト、概念の追加（Corbin & Strauss, 1990）
- そこで文献抽出（1992-2008；邦文24・英文122）、研究論文は6件（一事例2、複数2）
- 看護実践で対象者理解の視点として使用していた
- カテゴリー（8場面）を応用したのは2件（後は不一致だった可変性）
- モデル（現象間関係など）の検証は皆無、政策に示唆できない

5.5 看護のSI研究

- **トコロ**（1992）：サリヴァン（対人関係論的精神医学）の影響
- 看護師・患者関係：方向づけ（未知者の観察）>同一化>資源活用>問題解決
- 同一化段階の患者方略（観察/自立/依存）と全体の看護師方略（未知者・要約提供者・教育者・リーダー・代理人・カウンセラー）を提示、組み合わせには至らず
- **キング**（1971）：目標達成理論（象徴的相互作用論に依拠）
- **相互行為**（両面での知覚→行動→行為）過程で、看護師の認識役割と患者の期待役割が一致→**共同処理**（共同で目標設定、手段選択）
- これも、組み合わせの法則性説明が、今後の課題
- 実践での応用を重視。目標志向的看護記録（GONR）

2. フロアとのやり取り

質問： スライド 34、分析ワークシート(概念生成票)例の「定義」欄では、「視覚障害者が…不服なこと。」という書き方(主語を入れる)だった。これは、片側分析(相互行為の片方ずつ分析すること)だからそうしたのか。

回答： …これは、単純に分析焦点者だったからですね。…あと、英語で投稿する場合は、主語が無いと査読者に全く通じないので、日本語としてはちょっと変かもしれない、文章の癖がついてしまっているかもしれません。すみません。貴重なご指摘、有難うございました。

質問： スライド 45、発見した過程の理論(片側の理論図 2 枚)をテストするのに、緑色と黄色があったが違いは何か。もう一度説明してほしい。

回答： 緑色は経験との一致、黄色は認識との一致を尋ねました。過程の理論(SI-PT パラダイム)には、認識的要素と行為的要素が不可分に含まれているからですね。重要な点をご指摘くださり、有難うございました。

質問： スライド 38 以降、「応用」は参考になった。社会福祉でも「応用」は重要であり、また課題でもあると思っている。その点で、何かアドバイスがあれば。

回答： はい。例えばケアマネージャーであれば対人援助職として、第 1 に結果図を自分の現場で応用した結果を、第 2 に特性の異なる各現場での応用結果(適合度・有用性・修正など)の比較を、学会発表や論文にしていけばよいかと存じます。社会福祉領域における M-GTA の益々のご発展をお祈り申し上げます。

3. 感想

「量的普及」(論文が採択された学術領域を増やす)から「質的保証」への転換が急務です。社会科学領域では、研究者は社会心理学の先行研究や認識論に無知では済まされず、理論基準が問題になります。「なんでもあり」から「ごまかさない」M-GTA へ。

木下先生がキーファー先生から継承して導入された研究哲学(応用無ければ理論無し)は、対人援助職と社会科学研究者共通の課題です。研究会の正式名称は「実践的」GTA 研究会。次回(?)、各領域における応用のレビュー報告、楽しみです。

シンポジウムの発表者にご下命くださった M-GTA 研究会の皆様、当日フロアでご清聴頂いた会員の皆様、コメントをくださった先生方に、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。ほんとうに有難うございました。

【今回の会員限定シンポジウムの開催趣旨と振り返り】

林 葉子((株)JH産業医科学研究所)

今回の会員向け研究会の内容は、これまでの M-GTA 研究会の成果とも言える、M-GTA を用いて発表された論文に関する調査結果を報告するものです。これは、木下先生が、2020 年に**定本 M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論**を出版なさいましたが、それと同時に本研究会も 20 周年が過ぎたので、先生曰く、「ここで、M-GTA でどのくらいの研究成果がでているのかをみてみたらどうだろうか」ということで、各領域(看護学、社会福祉学、教育学、社会学、等)の世話人会の中の有志が集まって M-GTA 文献調査プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、当研究会が活動を開始した 2000 年以降、2020 年(前半)までの M-GTA を使った論文、つまり M-GTA で分析結果をだし、それぞれの分野の学術雑誌に掲載された論文を調査、分析しました。今年度の 5 月の総会時に第 1 次発表として、統計的な調査結果を報告させていただきました。今回は、2つの領域からの調査結果を発表させていただくことになりました。

この 20 年間に多くの M-GTA を用いた論文が発表されておりました。調査結果から、私たち M-GTA 文献調査プロジェクトといたしましては、M-GTA という方法論は、質的研究論文の質を上げ、研究分野の中で、それなりの評価を得てきていると自負しております。会員の皆様も、この結果に力を得て、多くの会員の方々に、M-GTA を用いた論文を発表していただきたく思っておりますし、M-GTA 研究会としても、会員の皆様の研究活動のお力になれるように、今後がんばって活動していく所存でございます。

最後に今回の感想を述べさせていただきます。今回も発表の後で、ブレイクアウトルームによるディスカッションの時間を長くっております。皆様の忌憚のないご意見、ご感想等を聞かせていただければと思っておりましたが、退室者が多く、残念でした。これにめげず、皆様が日ごろから M-GTA や M-GTA 研究会について思っていることを言い合える場を用意していきたいと思っております。M-GTA 研究会は、会員の皆様と協力して作っていく会です。これからも、一緒に M-GTA 研究会を充実したものにしていきましょう。よろしく願いいたします。

【参加者の感想】

- ① 初学者には難しい内容もありましたが、シンポジウムの内容は日常では触れることのできない貴重なお話であり、もっと知りたいと刺激を受ける時間でした。ありがとうございました。グループセッションは、12人だと多すぎたように感じます。もう少しコミュニケーションが取りたかったです。
- ② 投稿に向けて自分の論文の内容を再度見直し、さらに、どう実践的に応用できるか改めて考えたいと思いました。
- ③ 分析ワークシートの活用の仕方について勉強させて頂きました。ありがとうございました。

◇次回のお知らせ

○総会・第104回定例研究会

2025年5月24日(土) 13:00～13:30(総会)

13:40～17:10(定例研究会)

対面(於:大正大学)とオンライン(ZOOM)のハイブリッド

◇編集後記

4月は、皆様にとって新年度の始まりの時期ですね。ご入学、ご進級、ご就職を迎えられた皆様、おめでとうございます。新たな出発の時期を迎えておられることと思います。私は、毎年春に桜を見ると、新しいことに挑戦してみようという活力が湧いてきます。語学や資格の勉強を始めるのも良いですね。新しい趣味を始めるのも良いですね。今回の会員限定シンポジウムに参加して、M-GTAを正しく理解すること、そしてその正しい理解を広める必要性を改めて感じました。新しいことを始める活力が湧いてくるこの時期に、木下先生がご執筆された定本を読みながら、M-GTAに向き合おうと思っています。(今井朋子)

世話人:阿部正子、今井朋子、小沼聖治、唐田順子、菊地真実、岸田泰則、坂本智代枝、佐川佳南枝、隅谷理子、竹下 浩、丹野ひろみ、都丸けい子、長山 豊、根本愛子、畑中大路、林 葉子、平塚 克洋、McDonald, Darren (五十音順)

相談役:小倉啓子、小嶋章吾 (五十音順)

名誉会員:青木信雄、小倉啓子、木下康仁(故人)、水戸美津子 (五十音順)

編集・発行:M-GTA 研究会
研究会のホームページ:<https://m-gta.jp>
問合せ先:研究会事務局アドレス office@m-gta.jp